

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772100616		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム みなみ 1階		
所在地	福島県本宮市糠沢字南箕内102-3		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様が、安心して暮らせるように入居者の意向を大切に毎日生活しています。 ・季節の外出の支援の他にドライブ、買い物や外食の支援を積極的におこなっています。 ・毎年、地域の中学生のボランティア協力があり、様々な行事などを入居者様と協力し作り上げ楽しいものになっています。 ・地域の行事、運動会、芋煮会、敬老会に参加し地域住民との触れ合いを大切にしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1 法人は県内に多くの福祉関係事業所を開設しており、法人からは事業運営及び介護サービス等に対してあらゆる情報の提供やバックアップがあり、質の高いケアに努めている。 2 事業所では開設時より地域社会とのつながりを大切に事業を展開してきており、開設後10年経過した現在、日常的に地域住民とふれあう機会が多く、地域とのつきあいが円滑に行われている。 3 協力医療機関との連携体制が確立されており、訪問診療もあり、利用者は常に適切な医療を受けられる体制となっており、利用者および家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で原点に戻り入居者様に寄り添うことを明記した理念を作成し、朝礼で復唱し全員が意識をしてケアが出来るように図っている。	理念には「利用者が地域の一員として共に生活していけるように支援すること」を明記しており、さらに「行動指針」と共に玄関ホールに掲示し、朝礼の申し送り時に唱和し全職員が共通認識のもと日々のサービスに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、ホーム行事の際には、地域の方やボランティアなどと協力を頂きながら交流できるように努めている。	地域の行事(清掃活動、文化祭への出展、小学校の運動会見学等)に積極的に参加しており、事業所の行事には地域住民の参加があり、日常的に交流している。中学生の夏休みボランティアは恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。また近隣農家からの野菜の差し入れがあり、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にホームの便りを回覧しホームの取り組みを紹介している。地域の清掃活動の参加や、地域中学生の夏休みのボランティア受け入れなど行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の状況や行事内容を説明し、頂いたご意見をケアの向上に活かしている。また、メンバーの方々には、消防訓練に参加して頂いている。また、メンバーの推薦で傾聴ボランティアの受け入れ等に繋げている。	運営推進会議は定期的に行われている。委員からは事業所運営に関して様々な意見や提言があり、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会や催し物の案内などを頂くなど協力を得ている。運営推進会議に市の包括支援センター職員の出席もあり情報の交換をしている。	開設時より、市の担当者と連絡を密にしており、事業運営や利用者の相談等を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に積極的に参加し伝達講習を通して全員の意識を高めて、入居者様が自由に玄関先でくつろぐなど施錠をしないケアを実践している。	管理者及び職員はマニュアルを基に、共通認識に立ち、身体拘束をしない介護を実践している。日中は玄関の施錠はなく職員の見守りにより対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会に参加し、伝達講習で全員の理解を深めている。また、職員同士が不適切なケアが虐待に繋がっていく事を理解して、注意し合える環境になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めている。成年後見制度の利用を家族に働きかけたり、また利用の入居者様もおり理解が深まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必要な時間等を申し上げ、重要事項、契約書と全文を読み上げ説明し、不明な点はその場で承り納得頂いた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や、ご家族の意見に素早く対応できるように全職員が配慮をしている。また、ご家族が面会の際に、要望、意見等は承り、内容によっては本社を交えて話し合う機会を設けている。	利用者の日々の生活の中から意見や要望を汲み取るように努めている。家族からは面会時や状況報告の機会に意見や要望を聞き取るよう努めている。出された意見等はミーティング等で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議には本社からの出席もあり、職員の意見を聞く体制になっている。また、全員の職員と管理者の面談の機会もあり、出された、要望、意見は本社で検討し回答を得ている。	法人職員も参加するスタッフ会議や毎日のミーティングには職員の発言も多く、事業所の運営に反映されている。管理者は日ごろより職員とコミュニケーションを大事にし、職員の意向や要望を聴取することになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日手当、夜勤手当の見直しなど職員の意欲向上に努めている。また、資格取得支援制度もあり、職員の力量に応じた給料体制になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修体制、外部研修の充実で職員の受講する機会が増えている。2年勤続者には実践者研修、更に経験を積んだ者には管理者研修と専門性を高める研修を受講する機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修の参加や、市主催の研修に参加することにより、同業者との交流も増えている。また、同法人内のホームとの交流も積極的に行い職員のケア意識の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントではわからないことや、ご本人の意向を入所して1ヶ月の間に来るだけ話を聞いたり、状態の確認などから、ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向や、入居者様の想いを受け止めると共に、入居されてからのリスクを説明することで信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況をご家族様や、病院などで確認をして、ホームで穏やかに暮らして頂く為の今後の支援を考えて行くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活を共にして家族同様の良好な関係である為に出来ることは嬉しい役割を持っていただいで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や、ご家族様との関係など知り、ホーム行事の参加や面会等を通しホームに入られてからの良好な関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加することで、知人に会い交流がある。また友人の面会など等では訪れやすい雰囲気作りを心掛けている。	家族との外出で温泉入浴、墓参り、馴染みのお店での買い物、理美容室の利用等これまでの関係が途切れないよう支援している。訪問理容の受け入れや移動パン屋の訪問等は新しい馴染みの関係となってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで過ごされることが多く、レクリエーションを一緒に楽しんだり、ソファで談笑する事が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去や、移られた施設を訪問し、様子を確認している。また、以前入居されていたご家族から相談があり、入居に至るケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本社書式を利用し、本人の意向や、ご家族の想いなどを踏まえその方らしいプランになるようにしている。	利用者に日々係わる中で、利用者の仕草や些細な会話の中から思いや意向をくみ取るようにしている。また、意向を表せない利用者に対しては表情・言葉・態度・行動・仕草から推測したり、家族と話し合い利用者本位のケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で、ご本人様、ご家族様からお話を伺い、施設、病院の実態調査では、担当ケアマネや、看護師から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にモニタリング、アセスメントを行い現状に合っているかを検討している。日々の心身状態の変化はバイタル測定や、本人の訴え、様子の変化について申し送りでの情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞いている。ケース会議では、担当者のモニタリングを元に現状に合った介護計画になるように意見を出し合っている。	利用者、家族の意向を踏まえ、利用者の現状に即した介護計画を作成しており、個別記録をもとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌を当日の担当者が記入し夜勤者が出勤時には申し送りを行い業務に入っている。朝の申し送りで職員間で周知徹底をしている。それらの情報を介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本社より、歯科衛生士が毎月訪問し、入居者様の口腔内をチェックしている。場合により歯科受診もおこなっている。また、マツサージ師のホーム訪問もサービスで行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生のボランティアが毎年訪問している。地域の敬老会、芋煮会などには地域の住民として参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望を聞き決めている。入居者の体調や、家族の状態に合わせ往診体制も実施されており、適切な医療が受けられている。	利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医としているが、これまでのかかりつけ医の受診は家族同行で支援している。受診結果は書面で家族と事業所間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の毎週訪問があり、入居者様の状態を伝え、アドバイスを頂いたり、往診医師との連携も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ付き添い看護師に情報の提供を行い、面会時には看護師より、病状を伺っている。退院時の医師面談にはご家族の了解を得て加わり、退院後の生活についてアドバイスを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に現時点での終末期の対応についての同意書を頂いている。入居者様の状態を医師、ご家族様と話し合い、方針を決めている。研修を通じて知識を深め現在まで数名取り組んできている。	「重度化した場合における(看取り)指針及び医療連携同意書」及び「終末意向確認書」を策定し、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。重度化や終末期への対応について職員研修を行い、利用者・家族・医師・事業所と連携してターミナルケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急救命講習の受講、本社の救急救命士による緊急時の対応の勉強会を行っている。急変時に心肺蘇生を実施し救急搬送した例もあり緊急時対応マニュアルに沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災の自主避難訓練を実施している。地震水害等の災害については、研修に参加し、職員に伝達講習をして、全職員で共有し安全に避難できる方法を検討している。また、地域の方々の連絡網を作成し緊急の場合は協力体制が出来ている。	事業所では防災訓練を年間計画し、計画に基づき毎月訓練を実施している。消防署の立会いのもと総合防災訓練も年2回実施している。災害時の缶詰類・米・レトルト食品・ヘルメット・非常袋等を準備している。法人から備品の補充もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の高齢者が多いので排泄の声掛けには気遣いを忘れないようにしている。また、車椅子の入居者様のトイレはカーテンを付けるなどプライバシーの配慮をしている。	全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者へ対しての言葉遣いや対応については、研修会を通して徹底している。トイレ誘導の際の声掛けや居室入室時のノック等、利用者のプライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問をするように心掛けをしている。お好きな飲み物の支援や、移動販売のパン屋さんで楽しそうにはパンを選ばれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分により、無理のない生活を送られるように支援している。居室で休まれる方や、朝ゆっくりとされ、遅れて朝食を召し上がる方などその方らしい生活が送れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替え時には話をしながら、洋服を選んで頂いたり、爪切りや髭剃りのお手伝いをしながら身だしなみには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の下ごしらえや、盛り付け、後片付けなど出来る事は、行っていただき、一緒に食事を楽しんでいる。	献立は法人で作成しており、食材は法人から配送され事業所で調理している。利用者の要望などを取り入れ食事が楽しいものとなるよう臨機応変に献立を変更している。食事の準備や片付け等は利用者と共にっており、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。年間を通して行事食を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みに合わせて、毎日の食事量や水分量を記入し、体調の管理をしている。不足している場合はお好きな飲み物など個々の調理方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして実施している。お一人で困難な方は職員が介助を行っている。本社の歯科衛生士が、月2回訪問し、場合により歯科に通院介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居や、退院時はオムツで対応でも、立位が可能ならトイレでの排泄に向け時間での誘導をしている。夜間については覚醒されている場合はトイレに誘導をし失禁を減らし本人の自信に繋げている。	排泄チェック表をもとに利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく声かけをし、自尊心を傷つけることのない対応を心がけており、排泄の自立の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操の実施や乳製品、野菜の摂取を多くするなど、自然な形で排泄に取り組んでいる。入居者自身が気に掛ける方も多く医師にアドバイスを受けたり予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調、希望に合わせて入浴を実施している。浴室はゆったりとした雰囲気心がけ、入浴前後の水分の補給、バイタル測定など健康面でも注意をしている。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴拒否者には担当者・時刻・話題を変えたりして誘導している。入浴できない場合は清拭やシャワー浴などで柔軟に対応している。浴室に観葉植物を置きくつろげる雰囲気づくりをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、入居者様の希望により自由に休んで頂いている。安眠に繋がるように、日中帯での活動も考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って介助を行っている。また、服薬情報を1冊にまとめ、分からない事があればすぐに調べ理解してから服薬をするようにしている。他ホームと協力し、薬剤師による研修会を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が役割を持って頂くように、個々に出来る事、やりたい事を考え提供している。編み物をしたり、本を読んだり、パズルをしたりなど思い思いの暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出支援の他に地域の行事への参加、買い物の支援や外出の希望に沿い支援している。また、家族との旅行や、冠婚葬祭なども、ホームも協力している。	好天時には散歩や買い物に同行するなど外出の機会を作っている。家族等の協力を得て旅行などを楽しむ利用者もいる。法人所有のバスを利用して事業所全体で花見や紅葉狩りを実施している。また、沿道でのロードレースの応援や紫陽花園・つつじ園の見学などの多くの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理は行っているが、家族が同意されご自分で持たれている入居者様もいらっしゃる。買い物に同行されお金を支払われることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望が頻回ある場合はあらかじめご家族様に了解を得る場合がある。孫からの手紙を嬉しそうにご覧になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節の飾りつけや、行事の案内、写真を飾ったり、毎日の献立を掲示している。居室で過ごされている時は温度などに注意をし快適に過ごせるように支援している。	共用空間には机と椅子のエリア・ソファエリア・畳エリアがあり広く明るい。鉢植えの花や観葉植物が置かれ、壁には市の文化祭に出展した作品をはじめ日常の手仕事の作品・写真・広報誌等が掲載され楽しいエリアになっている。利用者は思い思いのエリアで自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファなどで思い思いに過ごされたり、他の入居者様と談笑されたり、和室で洗濯物を畳んだり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自分のタンスや、ご家族の写真など飾っている。家具、ベットの向きなど、ご家族やご本人と相談しながら居心地の良い環境になるように努めている。	居室には家庭で使用していたものを自由に持ち込み、利用者が落ち着いて生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に状態に合わせた手摺の設置や、トイレまでの動線の確保など、安全に配慮している。		